
異世界にやってきた赤き光の戦士

善宗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界にやってきた赤き光の戦士

【Nコード】

N5214Z

【作者名】

善宗

【あらすじ】

なんかついガイアの着地シーン、ガイアの一期ed、聖樹師物語のopが気に入ってしまいつい勢いで書いてしまった・・・反省はしていない！！

（前書き）

時間帯はウルトラマンガイア本編から約7年後の設定です。

それではどつどつー！ー！

空気中のエネルギー「エナ」を利用した技術「亜法」によって文明を支える異世界ジェミナー、そしてその世界に一人の少年は召還、もう一人の少年は光に導かれ飛ばされてきた。

一人の少年の名は征樹剣士^{まさきけんし}、彼はこの世界の最強兵器「聖機人」に対し天才的な才能を持つ、シュトレイユ公国の皇女ラシャラの暗殺の任務を受けていたが失敗し、ラシャラに保護される。

もう一人の少年の名前は高山大地^{たかやまだいち}、見た目は剣士と同年代の少年だが、彼は「聖機人」を操れない。しかし彼には戦う力を持っていた、かつて地球を守った青年から引き継いだ”力”を持っていた。

これはもう一人の少年の話……

「うう……」

俺は目を覚ますとそこは木々が生い茂る森の中だった。

「なんで確か僕は部屋にいてそのとき我夢兄さんからもらったアレが光り出して……いったいなんだんだココ？」

俺はそうつぶやいていると上空から轟音が響き上を見上げると三体の何かが白い島みたいなのに向かって飛んでいた。

「何だアレ？根源的破滅招来体にしては小さいし、まさか前に我夢さんや鷺羽ちゃんの言っていた多重世界とかパラレルワールドとやらか？クソッ、こういう時に我夢さんか藤宮さんがいればわかるのに…ん？」

上空の戦闘を見ると、目の前の草が赤く光り、よく見るとアレが光っていた。俺は拾い上げ

「こいつも来てたのかなるほど…どうやら」また「闘わなくちゃいけないみたいだね今度はマシに闘ってみせる…行くぞっ！」

俺は我夢さんから譲り受けた”エスプレンダー”を右手で持ち、それを左胸につけ突き出しながら地球を守った英雄の名前を、俺の戦士としての名前を叫んだ。

「ガイアアアアアアアア！！！」

「くそっ 3対1では！」

私は敵の攻撃を防ぎながら数の不利に苦しんでいると前に襲ってきたアイツの闘い方を思い出し剣を持った敵に向かって尻尾をふり、敵が尻尾を斬った後に私がいらないことに驚いている隙に背後から腕を斬り、蹴り飛ばすと

バキッ！！

足の部品が負荷のかかりすぎによって壊れ、動きも鈍くなっていた。私は青い聖機人の剣を防いだが押されだした。

「どうしたもう終わりか？」

私はなんとか闘い続けるが足の部品が壊れ、2対1という不利の中での戦闘で腕を斬られ、膝をついた私に青い聖機人は剣を構えたが、森の中から赤い光が来て、

「デヤァー!!」

奇妙な声とともに敵を吹き飛ばし、私の近くで光は晴れ

ズウンー!!……

私の目の前に激しい砂煙とともに現れたのは赤色と銀色の体に金色のプロテクター、胸の真ん中に青い水晶をつけた。聖機人とは程遠い姿の巨人が立っていた。巨人は私を見て、近いてくると

「フンツ…デヤツ」

「え!？」

聖機人ごと私を持ち上げ、敵と離れた所に降ろし、敵に向かうと右手を突き出し左こぶしを顔の前に持つて行き

「デヤツー!!」

叫び、走り出した。戦斧を持った聖機人が横に薙ぎ払うとするが、巨人は柄を掴みチョップで武器を壊すと

「ハッ!ハッ!」

「グウ！？」

顔面に拳を叩き込み、左手で相手の胴体を掴み、

「ダァー……デァァー!!」

「キヤアアアアアアアアアアアアアアアア！？！？！？」

そのままスワンの外へ放り投げた。

「おのれえ！！私に齒向かうものは死ね！！」

青い聖機人が背中を向けた巨人に向かって剣を振るうが、巨人は振り向かずに

「ハッ！！」

ギ
ユ
ン
ツ
！

ジャンプで攻撃をかわし背後に回って青い聖機人を蹴り距離を開けると

「ハッ！」

左腕に右腕を垂直に乗せると赤く光り、

「デヤアアア・・・」

赤い光を腕に纏いながら腕を動かし、90度動かすと

「デヤアアア!!!」

赤い光流が出た。青い聖機人はぎりぎりでかわすが、右腕は消失しかも赤色の巨人は依然と構えたまま

「チッ！今日のところは引き上げてやる!!」

敵は撤退していくと私は聖機人から降りて巨人を見つめていた。赤い巨人は私を少し見た後、

「ハア〜〜ハッ!!」

赤い光が輝くと巨人は小さくなり、私の前に一人の少年が私の前に現れた。

「失礼、無事そうですね。」

目の前の少年は私に優しく声をかけるが、私は警戒する。少年は苦笑いをして

「ごめんなさい、僕の名前は高山大地と言います。ここはどうか僕知らない場所みたいですいませんが、色々と情報やルールを教えて下さると助かります。」

目の前の少年は自分は異世界人と言い、無知であると言ってきた。すると建物の方から

「立ち聞きさせてもらったが、大地と言ったな…お主変わった力を持っているようじゃな。アレはいつたいなんなのじゃ?」

ラシヤラ様が先ほど暗殺者に狙われたとは思えないほどの笑みを浮かべながら出てきた。大地と名乗った少年はポケットから真ん中に青い結晶体が入った三角形（正確には六角形）の物を取り出し、

「あれは……僕の世界を二度救った英雄……俺の場合は受け継いだのですが、僕の世界ではウルトラマン……俺がなったのはウルトラマンガイアと言います。」

こうして異世界に一人の大地のウルトラマンが現れた。

（後書き）

～主人公の設定～

名前：高山大地 たかやまだいち 年齢：17歳

設定：我夢との関係は我夢の父親の弟の息子で、天地とは仲良い
ご近所関係、藤宮とは闘い方の支障と弟子の関係である。大地が我
夢からガイアを受け継いだのは12歳の頃、遊びに来ていた我夢と
森の中を散歩をしている時にエスプレンダーが激しく反応し、我夢
が受け継ぐのに相応しいと判断、エスプレンダーを譲渡した。

初変身は14歳、魍呼と阿重霞の喧嘩に巻き込まれ、瓦礫に巻き
込まれそうになった砂沙美達を助ける為に変身、その後酔っ払った
魍呼に絡まれ、結果惨敗、悔しくて戦い方を修行を始めた。その途
中に放浪していた藤宮と出会い、ウルトラマンの闘い方を学び、身
につける。

大地のガイアの姿はv2ではなく初期の姿、一度我夢、藤宮、鷲
羽が集まって研究した結果、今の大地にv2、svは煮が重いと判
断したガイアの光とアグルの光が力を抑えた物と判断した。

使える技は初期状態のガイアの技にアグルブレードが使える。（
抑え切れなかったアグルの光の影響と思われるもちろん剣は天地か
ら学んだ）

大地自身結構気楽で魍呼達が地球の外から来たとされた時は

「あ、やっぱりそうなんだ。根源的破滅招来体が宇宙から来たか

らほかにもいるんだねえ。」

の一言で一蹴、知り合いの前で変身することに何の躊躇もない（馬鹿と言われても仕方なし）。頭脳系というよりは体育会系であるので体力は剣士ほどではないが自身あり、

~~~~~

以上が設定となっています。連載は今のところ考えていません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5214z/>

---

異世界にやってきた赤き光の戦士

2011年12月17日18時54分発行